

fam.s

ファミ通 No.45
friends of art museum, saitama



《サポーターズ・チョイス!》 の舞台裏

のぞいてみました!

梅田正徳《月苑》

デザイン:1988年/製品化:1990年(エドラ社/イタリア)



2019年度MOMASコレクション第4期(2020年2月8日~4月19日)に開催された《サポーターズ・チョイス!》新型コロナウイルスの影響を受けて開期途中の2月28日で終了になりました。

この展示は、美術館サポーターがMOMASコレクションの展示に関わるという当館ではこれまでにない企画でした。担当の学芸員と共に3000点以上に及ぶ所蔵品の中からテーマを決め、作品を選び、半年以上の時間をかけて作り上げた《サポーターズ・チョイス!》を振り返ってみたいと思います。



2019年度MOMASコレクション
第4期出品リスト(PDF)

美術館サポーターとは: MOMASコレクションの作品鑑賞を楽しむためのガイドを行うボランティアスタッフ。現在39名が在籍し、毎日14時から約30分、担当者が日替りでMOMASコレクション展の作品ガイドを行っています。(新型コロナウイルス感染症予防対策のための活動休止あり)

《担当の喜多学芸員にいくつか質問を投げかけてみました》

Q. サポーターの目を通しての所蔵品展示をしたいと思われたきっかけを教えてください。

A. 学芸員の中で「当館のボランティアである美術館サポーターの意見を美術館の展示に取り入れたらどうか」という案が出ました。2020年はガイド開始から20年目の節目でした。MOMASコレクションを地域の方々と見つめてきたサポーターと共に展示を作り上げることで、美術館がお客様にとってより親しみやすい身近な存在になることができるのではと思いました。

Q. 展示テーマは(人物/線/ガイドの経験を語る/作品に言葉の投げかけを添える)の4つのコーナーで構成されていましたね。作業の過程での裏話などがありましたらお聞かせください。

A. 当時約30人のサポーターからはじめに提出されたテーマは47案あり、その中から絞っていきました。多種多様なテーマがあり、個々の意見を纏めるのは大変な作業でした。次に決定したテーマそれぞれにつき1作品ずつサポーターから希望を募り作品を選んでいきました。パウル・クレー《古代風の二重肖像》や、ジョルジュ・ルオー《横向きのピエロ》など、複数のコーナーで選ばれた作品も意外と多かったにもかかわらず、整理は想像したよりもスムーズでした。

4つのテーマ以外にも印象に残っているテーマがいくつかありました。中でも彩の国さいたまに因んで「彩、祭、妻…」等いろいろな「サイ」を集めた展示、できたら面白いと思います。

Q. 作品の展示された会場をご覧になった感想を教えてください。来館者の反応はいかがでしたか?

A. 他の学芸員が展示室を見たときに「普段の展示室と全然違う」と言われました。

展示会場は、華やかでお祭りのようだと感じました。

来館者からは、「面白い試みだ!」「作品の見方がいろいろある」などの感想が寄せられました。サポーターの中でも人気の高い、小茂田青樹《春の夜》や、上田薫《ジェリーにスプーンC》では、来館者も想像を膨らませて楽しんでいる様子でした。



サポーターの展示希望第一位
小茂田青樹《春の夜》(1930年)

Q. 展示を終えての感想をお聞かせください。

A. サポーターの方々と時間をかけて作り上げた展示が、開期途中で終了してしまいました。それが、とても悔しかったです。展示が決まっていたのに最終調整の段階で諦めなくてはならなかった作品もありました。梅田正徳《月苑》、佐藤時啓《Breath-graph I》は、会場スペースの関係で展示できず無念でした。

佐藤時啓の作品には、所蔵の《Breath-graph I》の他にも当館で撮影された寄託作品があり、いつかまとめて展示する機会があれば良いと思います。

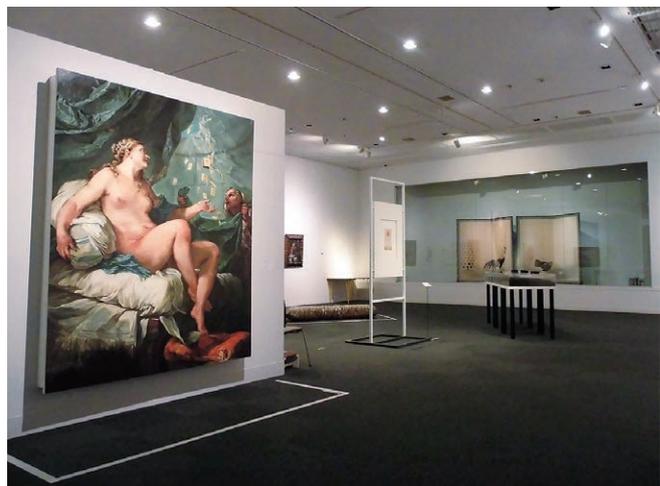
◆来館者の感想

- ・テーマの違う作品も違和感なくみせる工夫が随所に見られました!
- ・福田美蘭《黄金の雨に変身したジュピターを迎えるダナエ》の作品の裏側が見てみたいです。
- ・小茂田青樹《春の夜》人がいない明け方に猫が自由に花見を楽しんでいる感じでしょうか。

《インタビューを終えて》

インタビューのなかで「もっとますますすきになる」というサブタイトルもサポーターの提案と知り、サポーターが展示の企画に加われるワクワク感を感じました。作品と来館者を繋ぐ架け橋を担ってきた美術館サポーターの歴史の中で、今回の企画はサポーターの活動を通して、来館者の声を美術館に届けることが出来た新しい試みとなりました。その舞台裏では、担当された喜多学芸員の誠実な対応とご尽力があって、成し得た展示だったと感じました。

(K.K.&W.R.)



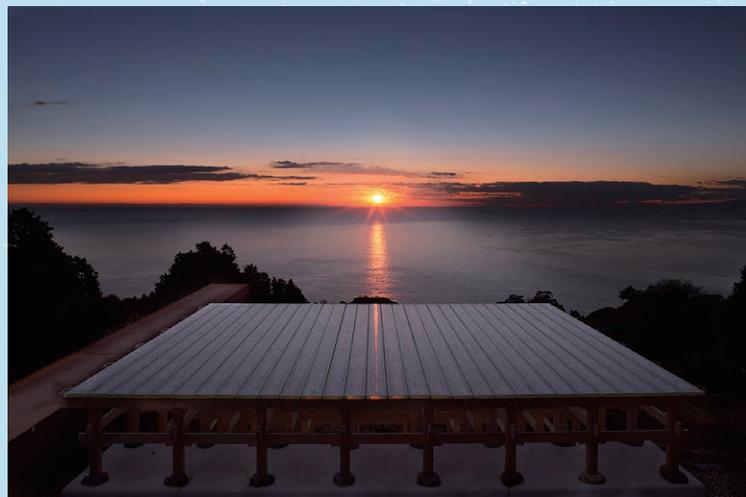
「サポーターズ・チョイス!」展示風景
左: 福田美蘭《黄金の雨に変身したジュピターを迎えるダナエ》(1994年)



2017年秋、小田原にオープンした「小田原文化財団 江之浦測候所」は、現代美術作家 杉本博司さんが、構想から開館まで20年もの歳月をかけたアート施設です。「ここを見つけるまでに10年。ここが自分の意識の原点。」(※1) かつて、真鶴駅と根府川駅の間には通称「めがねトンネル」(※2)があり、その海側には幾多のアーチ型の窓があげられていました。その窓からはコマ落としの映画のように、海が現れては消えるという繰り返しが続き、めがねトンネルを抜けると、目の前に広々とした相模湾がとびこんできたのだそうです。幼少のころのこの記憶が、後の《海景》シリーズや江之浦測候所を造る場所の選定にもつながり、「古代の人々の心の再体験をするというのをやりたいなあと思って。」(※3)と語る杉本さん。高低差のある敷地は、もとはみかん畑だったところ。雲一つない晴天に恵まれたこの日は、三浦半島を眺めながら、はるか房総半島の突端まで一望できました。それでは、広大な測候所内の施設をいくつかご紹介しましょう。



夏至光遙拝100メートルギャラリー ©小田原文化財団



<夏至光遙拝100メートルギャラリー>と <冬至光遙拝隧道>

海拔100mの地点に長さ100mのギャラリー。大谷石を積み上げた壁面と、対面の37枚のガラスによる開放感あふれる空間。夏至の朝、海から昇る太陽の光は、このギャラリーを数分間照らし続けるそう。また、冬至の朝には、コールドレン鋼で造られた70mの隧道に朝日が一直線に差し込み、対面しておかれた巨石を照らし出すという。

<光学硝子舞台>と <古代ローマ円形劇場写し観客席>

冬至の軸線である隧道に沿って、檜の懸造りの上に光学硝子舞台がある。舞台の左側には隧道の屋根に当たる部分が接しており、その上を海に向かって「止め石」まで歩くことができる。ところが、途中半分ほどまで進むと、海に吸い込まれてしまいそうな感覚になった。光学硝子を通して舞台の懸造りが透けて見えてしまい、足がすくんでしまった。観客席の下段に腰をかけると、舞台は海に浮いているかのように見える。客席に座っているのか、それとも浮いているのか、不思議な感覚になった。



冬至光遙拝隧道と光学硝子舞台 ©小田原文化財団

<化石窟>

かつて使われていたみかん小屋を整備して、化石コレクションが展示されている。建物に入ると、陽気な音楽に合わせて踊るダンシングロボスターが出迎えてくれる。どの化石もサイズが大きく、5億年前のウミユリや三葉虫も。ニューヨーク在住の時に蒐集したものだろうと想像するも、古生物の分野にまで及ぶコレクションには驚いた。

<明月門>

かつては、鎌倉 建長寺派明月院の正門。明月院の正門は、関東大震災(1923年)により半壊したのち、それを修復して根津美術館の正門として長く利用されていた。その後、根津美術館建て替えのおり寄贈されたとのこと。木賊(とくさ)張り(※4)を施された塀の向こう側には、立派なおオシマザクラがあった。花の時期にぜひ観てみたい。

ご紹介したのは、測候所内のほんの一部。新たな施設や石は開館当時よりも更に増えています。空を仰ぎ、メジロやヒヨドリなどの鳥の声を聴きながら、どこまでも続く海をのんびりと眺め、ゆるやかな時間が過ぎていきました。古代の人々の心の再体験に、ほんの少し近づくことができたのかもかもしれません。(A.T.)



明月門 ©小田原文化財団

- ※1・3 小田原文化財団HP 杉本博司インタビュー動画より
- ※2 赤沢隧道のこと 東海道線麻線区間 1972年廃止となり、遺構は現存している。
- ※4 半割の竹を木賊のように縦に並べて壁面を構成する方法。(江之浦測候所パンフレットより) 木賊(トクサ)は、スギナの仲間。葉っぱもなく、茎が分かれることもなく、直立した細い青竹のような姿をしている。

チェックポイント

- ★HPでの事前予約が必要です。2021年4月より「満月の会」も始まりました。
- ★すべりにくく、歩きやすい靴がおすすめ。高低差、段差が多数あります。
- ★フォトスポットが沢山あります。カメラやスマホの充電器をお忘れなく。
- ★小田原駅東口に、お食事やお土産に便利な「ミナカ小田原」がオープン!





*日程・内容は変更される場合があります。
最新の情報は各主催者へお問い合わせください。

第6回ポローニア展

2021年7月6日(火)~7月11日(日)
一般展示室 3

コロナ禍で1年延期になった待望の展覧会です。新しい生活様式の中で、表現した作品と共に集い確かめると同時に、皆様のお声を頂きたく開催いたします。多くの御来場をお待ちしております。 ※ポローニアは母校の「桐」



前回展の会場風景

第47回埼玉二紀展

2021年7月20日(火)~7月25日(日)
一般展示室 1,2,3,4

昨年開催できなかった二紀会埼玉県支部所属作家展。一昨年10月の第72回二紀展の受賞・推挙作家の特別展示のほか、大作を中心に約100点の作品を展示。



一昨年の会場風景

ヨシズミ トシオ個展
ありあるクリエイションズ藝術企画

2021年8月31日(火)~9月12日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際版画ビエンナーレの受賞作品も併せて発表致します。



前回の会場風景

第34回溪水会展

2021年10月5日(火)~10月10日(日)
一般展示室 4

いろんな分野の人達が集まった展覧会です。水彩画、油彩画、水墨画、墨彩画、パステル画、えんぴつ画、工芸品等、バラエティーに富んだ展覧会ですので、御来場の皆様には楽しんでいただけたらと思います。



前回の会場風景

ここが見どころ!

瑛九 (えいきゅう)

本名：杉田秀夫。1911年(明治44/宮崎県宮崎市) - 1960年(昭和35/埼玉県さいたま市) 日本美術学校で絵画を学ぶ。16歳から美術評論を始める。1936年フォト・デッサンの作品集『眠りの理由』を刊行し、この時から「瑛九」のペンネームを使用。51年〈デモクラート美術家協会〉を結成。この頃、浦和市(現・さいたま市)に転居。油彩画、フォト・デッサン、版画など多岐にわたる分野で旺盛な創作活動を展開した。

表紙解説：瑛九の人と作品

Spot Light

表紙作品

「青い中の黄色い丸」

1957-58 (昭和32-33)
油彩、カンヴァス 116.5×80.0 cm

瑛九は具象画を描くことから出発しましたが、1935年頃から41年頃まで実験的な表現に没頭します。40年代後半になると西洋の近代美術の研究をし、印象派の明るい光に満ちた表現、荒々しい筆使いによる色彩豊かなフォーヴィズム、形を分解したキュビズム等の方法を試みています。その後、具象的なモチーフにとらわれない独自の絵画に向かうことになりました。この作品は、微細な点でカンヴァスを埋め尽くした、晩年の作品群の先駆けをなすものです。青の中に散りばめられた黄、赤、橙(だいだい)等、色彩豊かな大小の円形の数々は、宇宙的で流動的な空間をつくりあげています。57年から58年にかけて瑛九は、アール・ブラシによる吹き付けを用いた作品や、円形の図形の図柄を様々に変奏させる作品を制作しています。



賛助会員名簿／私たちは美術館を応援しています (2021年3月1日現在)

■特別賛助会員

(株)アライ設計	浦和興産(株)	(株)エフエムナックファイブ
(株)ガロ	(有)埼玉画廊	(株)埼玉りそな銀行
税理士法人さかえ会計	(株)神住建	セントラル自動車技研(株)
全和会 秩父中央病院	(株)テレビ埼玉	DAY HAPPY
(有)二木屋	日本畜産興業(株)	(有)細井技研
松田産業(株)	丸沼芸術の森	(株)万世
武蔵野環境整備(株)	(株)武蔵野銀行	(株)ペペロネ
メガソーラー機構		

■法人賛助会員

(有)ギャラリー藤井	群炎美術協会 埼玉支部	溪水会
(株)コア	工芸新樹会	埼玉二科会
埼玉二紀会	CAFN協会	(一社)新構造社 埼玉支部
全日本書道芸術院	(有)とらや	(有)中村元
ポローニアグループ	見沼100年構想の会	武蔵野美術大学卒業生会 東京埼玉支部
(株)雄文社	凜の会	

■個人賛助会員

一瀬 謙輔	岡田 謙司	岡部 照夫	岡部 美代子	加藤 正宏
小松 弥生	清水 武司	鈴木 京子	高橋 碩子	滝沢 布沙
遠山 隆志	野口 真理	樋口 征子	廣澤 公太郎	丸山 晃
横尾 嘉子				

ファミス (fam.s) とは

About fam.s

ファミス (fam.s) とは、埼玉県立近代美術館友の会フレンドの愛称です。美術館を支援し、芸術文化の振興、心豊かな社会づくりに貢献することを目的に活動しています。会員には様々な特典があり、入会は随時受け付けております。詳しい内容については、美術館HP (<https://pref.spec.ed.jp/momas/>) もしくはフレンド事務局 (TEL 048-824-0111) までお問い合わせください。



編集後記

今号より広報委員が一新！このタイミングで、紙面を大きくしてみました。存在感あふれる表紙は、「飾る」をテーマに収蔵品の中から選んだもの。初心者マークの私たちには、記念号となりました。(A.T.)

【ファミス通信のデザインが変わりました】

ファミス通信は、判型をA4に変更、併せてデザインも変わりました。ファミスの新キャラクター「ファミちゃん」が紙面の紹介をお手伝いしてくれます！

